

**伊予市 じんけん教育**

一人ひとりの人権が尊重される  
明るい伊予市をめざして

2025  
No. 50

■編集・発行  
伊予市教育委員会  
愛媛県人権教育協議会伊予市支部  
〒799-3113 伊予市米湊 820 番地  
TEL 089-982-5155 FAX 089-982-5156

今年度も差別をなくすための人権啓発・人権意識の高揚を目的とした、人権啓発作品を募集したところ、市内各学校・家庭・地域よりたくさんご応募いただき誠にありがとうございました。

応募数は、小学生317点、中学生104点、高校生15点、成人128点、総数564点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様、おめでとうございます。

今号では、受賞作品の一部をご紹介します。



港南中 2年 大平 柑那



伊予農高 1年 篠浦 春樹



郡中小 6年 中平 花蓮



伊予中 1年 岸田 瞳奈

**人権ポスター 最優秀作品**



郡中小 4年 津田 心乃葉



由並小 5年 大橋 要

人権詩 最優秀作品

家族に言いたい「ありがとう」

郡中小 4年 藤谷 希衣菜

わたしをうんでくれて ありがとう  
生きる希ぼうをくれたのは 家族  
すてきな名前をくれて ありがとう  
わたしは この名前が大好き  
一生けん命育ててくれて ありがとう  
おかげでりっぱになりました  
おいしいご飯をつくってくれて  
ありがとう  
ときどきお手伝いをしようかな  
いつもいつも ありがとう  
いつか 親孝行をたくさんしよう



ありがとう

伊予小 5年 木山 桐吾

ぼくはともだちの用事を手伝った  
ありがとうと言われた  
ぼくはありがとうと言われて  
すごくうれしくなった  
ぼくは笑顔になった  
やってよかったなと思った

またほかの日にはぼくは  
用事を手伝ってもらった  
ありがとうと言った  
ありがとうと言った自分でも  
すごくうれしくなった  
ぼくはついつい笑顔になった  
みんなも笑顔になった

ありがとうという言葉は  
まほうの言葉だなと思った  
だからこれからもかならず  
ありがとうと言おう  
まほうの言葉を大切にしていきたい

やめよう 人種差別

翠小 6年 窪田 ロナ

目の色がちがってもいい  
肌の色がちがってもいい  
生まれた場所がちがってもいい  
それだけで決めつけないで  
みんな一人の人間だ  
ちがいは美しいものなんだ

目の色がちがうのはきれい  
肌の色がちがうのはすてき  
生まれた場所がちがうと  
新しいつながりができる  
ちがいを見つけよう  
みんな一人の人間だ  
ちがいは美しいものなんだ





本当の私

中山中 2年 城山 信

楽しくないのに笑う私  
うれしくないのに笑う私  
辛くて苦しいのに笑う私

気づけばそこに  
本当の私はいない  
心から笑う素直な私はいない

そこにいるのは  
嘘つきな私  
心を偽った私

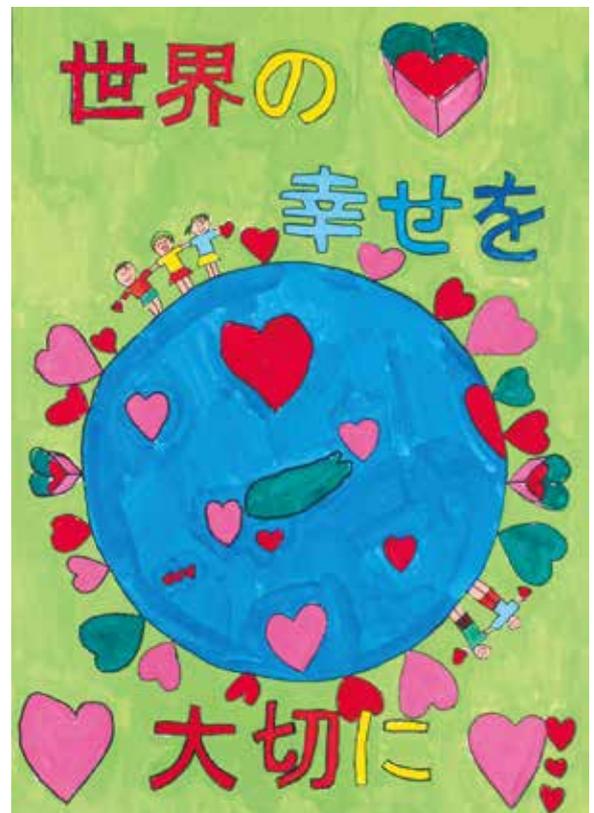
そして私は「はっ」とする  
本当の私はどこへいったの？



人権ポスター 優秀作品



佐礼谷小 5年 横山 僚祐



由並小 4年 山本 悠海

# 人権作文 最優秀作品

だれもがすごしやすい

社会になることを願って

伊予小 4年 宮内 葉那

私には、しょうがいのある弟がいる。弟

は、特別支えん学校で友達と楽しくすごしている。この世界には、他にもしょうがいのある人がたくさんいる。例えば、目が不自由な人、耳が不自由な人、足が不自由な人に発達にしょうがいのある人など。しょうがいがあるせいで行きたい学校に通わせてもらえなかったり、はたらかせてもらえなかったりする人もたくさんいる。みんな、しょうがいのせいで、友達にいじめられたり、十分にご飯が食べられず、えいようが取れなかったりして、幸せにすごせていない人もいる。周りには、それを手助けする人もいるが、見て見ぬふりをして、助けもしない人もいる。しょうがいのある人は、

人に支えてもらっている人もいるが、いじめられ、からかわれ、ひとりぼっちになり、さべつされる人もいる。でも、しょうがいのない人だけが幸せになったのでいいのだろうか。しょうがいのある人も幸せになれるのいいのではないのか。しょうがいのある人を見ずともいいのだろうか。これらのことを、きちんと考えて過ごしているのだろうか。

多くの人は遊べるほど元気だが、しょうがいのある人は仲間に入れてもらえなくてひとりぼっち。そんなのはおかしい。それは、見ている周りの人が分かっているはずなのに…。どうして見ずてるのか。みんな幸せになるのが「平和」ではないのか。みんなは平和を願っている。だが、一人でも見ずてられて幸せにない人がいれば、その人を支えなければならぬ。みんなはそう思わないのか。

見ずてられている人がいるのは、しょうがいのある人でも通える学校が少なく、しょうがいのある人でもはたらける場所が少ないからだと思う。そのためのしせつな

どを作るのは難しく、お金がかかるのも分かっている。だが、それでもしょうがいのある人が通えたり、はたらけたりできるしせつを少しでも多くしたら、生活がゆたかになる人もたくさんいる。

ヘレン・ケラーもそうだ。ヘレン・ケラーは見えない、聞こえない、話せないというしょうがいを乗り越えた女性だ。ヘレン・ケラーは自分がした苦しい思いをする人を少しでもへらすために努力して、しょうがいのある人々を支えていた。見て見ぬふりをする人は、ヘレン・ケラーのように、少しでも人を支えるようになれば幸せにさせる人も増えると思う。そのような、活動をつけていけばすくわれる人もたくさんいて、自分たちが願っていたゆめ「平和」にも一歩近づけられると私は思う。

だから、だれもが幸せになるために、自分も何か小さいことでも人の支えになることは続けていきたい。それがどの世代にも伝わって、未来でもそれが続いてだれもがすごしやすい社会になることを願っている。



気付く・考える・行動する

由並小 5年 高木 茜里

わたしは、夏休みにいじめストップ会議に参加しました。市内の小・中学校の代表者が集まり、それぞれの学校で取り組んでいることや自分の学校でやってみたいことを話し合いました。そこで、全校児童の仲が深まるように考えたことがあります。その合言葉は、「気付く」「考える」「行動する」です。

まず、いじりといじめの話です。集団の中で場を盛り上げようとして、いじりのつもりでからかったとき、受け取る側はいじめだと感じることもあるかもしれません。この感覚のちがいに気付くことができているかという話を聞きました。相手の立場や気持ちを想像して、気付く

人になりたいと思いました。

次に、相手をきずつける可能性に気付いたときの話です。みなさんは言葉を使った後に「しまった」と思った経験はありませんか。相手を悪く言うつもりはなかったのに、よく考えてみると悲しい思いをさせたかもしれないなどと自分をふり返ることがあります。本当にその言葉を使ってよいかと考えることが大切です。言葉を使う前も、使ってしまった後も考えたいです。クラスの友達も、言ってしまったから後かいをした経験があると話していました。ただ、心の中で思っているだけでは伝わりません。

そこで最後に、行動することについて考えました。例えば、友達をきずつける言葉に気付き、友達の気持ちを考えることができたときには、謝ったり取り消したりしたいです。いじめにつながるかもしれないと気付いた人も自分を反省して、行動しなければ何も変わりません。声をかけたり、先生に相談したりするなど、できそうな行動をしていきたいです。

今、わたしたちの学校では、たて割り班遊びをしています。いろいろな学年の友達と仲が深まるので、これからも続けていきたいと思っています。授業では、一人ひとりの意見を大切に聞くことも大事だと思っています。私の学校ではみんなのことを大切にしていることが伝わるように、星の形のカードにメッセージを書いて送る活動もしています。この「かがやきキララさん」のカードがたくさんになるように、これからも周りの人のよいところを見つけていこうと呼びかけていくつもりです。これらの活動を自主的に進めていくことが、一人一人の人権を大切にするにつなげていくはずですよ。



# 人権作文 最優秀作品

## 友達を大切に

中山小 6年 高木 未来

みなさんは、「人権」とは何だと思えますか。私が思っている人権とは、すべての人の一人ひとりの個性が大切にされる権利だと思います。みんな顔や体など、生まれながら、一人ひとり違いがあります。それは、その人自身が望んで決めたことではありません。中には、つらい病気で苦しむ人もいます。だからこそその違いは、一人ひとりが生まれもった個性であり、その個性をすべての人が分かり合うことが大切だと思います。つまり、一人ひとりの違いという個性を、まずは知ることが大切です。例えば、友達の良いところになって理解すること。その上で、友達の個性を認めることができれば、自然に私たちができること

が浮かんでくると思います。

私たちの学級では、週に一回みんなで昼休みに遊ぶようにしています。たくさん友達の中に、運動をするところでも疲れてしまつて動けなくなつてしまつて病気をもっている子がいます。だから、みんなが喜び、楽しむことができる遊びを学級の人みんなで考えて、トランプをすることにしました。

今までは、運動場や体育館でドッジボールなどのスポーツをすることが多かったですが、学級の人みんなで話し合つて決めたことに取り組んでいます。みんなの個性を考えて、すてきな仲間だなと思えました。みんなでするトランプも楽しいです。

また他の友達には、食物アレルギーがあります。その友達がアレルギーの食品を食べてしまつと大変なことになってしまいます。だから、除去食といって、みんなとは違う食事を食べる時があります。学級のみんなはそのことについて、「どうして、あの子だけが違う物を食べるの。」

なんて言う人は一人もいません。みんなが

その子のことをきちんと理解しているからです。配膳のときから、その友達にアレルギー食材が混ざらないように、みんなが注意できています。みんなが協力して、助け合っているのです。私もうれしい気持ちになります。

私は、この二人の友達のことから学んだことがあります。まずは、「友達を大切にすること」です。みんな一人ひとりが違う個性の中で、どこが同じだとか、似ているところがあるなとか思えたから、仲良くなることのできた友達です。そんな友達を大切にしたいです。もう一つは、「協力・助け合い」です。私一人で何でもできるわけではありません。みんなの心が一つにならないこともあるかもしれません。でもそんなときに、もう一度みんなで力を合わせて協力し、助け合つて、正しい方向に進んでいきたいです。





## THE CHALLENGED

中山中 1年 宮田 悠矢

あなたは、障がい者という言葉から、何を思い浮かべますか。僕が最初に思い浮かべたことはどのような障がいがあるかということでした。障がいの種類は大きく分けて身体障がい、知的障がい、精神障がいの3種類に分類されるそうです。僕の身近な人に、身体障がいがある人がいます。その人は、生まれつき両手の指が他の人とちがいます。でも、その人は仕事も生活も他の人と変わらないくらい、僕の目には何も不便がなさそうに暮らしています。僕はその人が、障がいがあることをずっと知りませんでした。そして、何年も経ったころに知ってびっくりしました。そのくらい、その人は健常

者の人と同じように暮らしています。

僕は、障がい者という言い方があまり好きではありません。それはなぜかというと、障がいがあることで、かわいそうに思われたり、害という漢字が使われていることがあったりするためにマイナスイメージを持たれると考えるからです。世界にもいろいろな言い方がありますが、その中で、最近使われはじめた「THE CHALLENGED」という言い方が僕は好きです。「障がい」をポジティブに捉え、「挑戦する」という課題や使命、資格を与えられた者」という意味だそうです。障がいがある人は、それに屈しないくらい努力をしてきた人たちだと僕は思います。もし、障がいがあったら、小さな障がいでも、それを補おうと頑張ることができると、適度に暮らすことなく、毎日を大切に過ごそうと思えるようになると思います。

それをより実感したのは、この夏、甲子園を見ていて障害がある人が活躍しているのを見たときです。ベスト4になっ

た岐阜商業の横山温大選手は、生まれつき左手の指がないのに、ヒットを打ち、右手でキャッチして、グローブを持ち替えて投げているのを見て衝撃を受けました。このようなことが出来るようになるまでに、大変な思いもしただろうし、想像もつかない努力をしてこられたと思います。まさしく、これが「THE CHALLENGED」だと思います。みんながこの横山選手のようにすごいことができるわけではないですが、障がいがある人は、健常者の何倍も努力をし、毎日を一生懸命に生きている人たちだと僕は思います。だから、障がいを理由にいけない、差別をしたりしては絶対にいけないと思います。

僕は、この作文を書くにあたって、障がいについて考えることで、もっと毎日を大切に生きて、いろんなことを頑張ろうと思うようになりました。つついさぼったり、毎日を適度に過ごしたりしてしまいがちですが、努力してできないことはあまりないはずだから、もっといろ

んなことに全力で向き合っていきたいです。

社会では、障がいがある人も健常者と同じように仕事をし活躍している人がいます。それを実感したのは、障がいがあるにもかかわらず、健常者と変わらずに画家として、すばらしい絵を描いている石村嘉成さんを知ったときです。障がいのあるなしで、差別をするのではなく、同じ人間同士それぞれが、がんばって生きていくから、差別をしないで認め合ったり、尊敬をしあったりすることが、これからの未来ずっと続いていかなければならないと思いました。障がいがあると本人だけでなく、周りの人もたいへんな思いをするかもしれません。でも、障がいに対する理解を持ち、助け合いができる社会になってくれたらうれしいです。障がいにより周りの支援が必要な人たちもいるから、そういう人たちときちんと向き合い、助けが必要な時には、積極的に手助けをする人が、たくさん出てくるようになったら、よくなると思います。

近い将来、日本も障がい者という言葉ではなく、前向きな言い方になって、障がいがある人が差別や嫌な思いをしないような優しい世界になってほしいです。そして、いつかいろいろな研究や医療が進んで障がい治せる、すべての人がとも笑顔で暮らせる未来がきたらいいなと思います。

僕は障がいのことだけでなく、様々な場面で差別やいじめをせず、困っている人や、間違っている人には注意できる人でありたいと思います。



中山小 5年 山本 璃桜



**人権標語 最優秀作品**

◆ ありがとうも ごめんねも  
ちゃんとしたえて  
ハイ、タッチ！

北山崎小 1年 前田 尚

◆ 見つけよう  
がんばるきみの いいところ

伊予小 2年 原田 茉知

◆ ちがうから おもしろいね  
ともだちって

伊予小 3年 岡田 彩希

◆ ほらごらん  
ひとみかがやく 仲間あり

南山崎小 4年 城戸 紫帆

◆ 好きになろう 自分の個性  
認め合おう みんなの個性

郡中小 5年 出海 朝陽

**人権ポスター 優秀作品**



伊予中 1年 今井 玲那



中山小 6年 亀崎 結愛

◆「大丈夫！」

あなたの味方は そばにいる

郡中小 6年 大西 希実

◆咲かせよう

小さなつぼみを 笑顔の花に

港南中 1年 二川原 七望

◆ほめ言葉

笑顔の花の たねのもと

伊予中 2年 玉井 眞夢

◆差別の芽

摘んで育む 幸せの花

中山中 3年 石田 将史

◆考えよう

今言う言葉と その先を

伊予農高 3年 多川 美結

◆きみとぼく

一緒はうれしい 違うはたのしい

伊予小PTA 吉岡 梓

人権ポスター 優秀作品



伊予中 3年 岡井 寧々



中山中 2年 上見 優斗

